

海津市まちづくり委員会「第15回ふるさと定住促進検討分科会」会議録

開催年月日 平成22年10月22日(金)
開催場所 海津市役所海津庁舎3階「委員会室」
分科会委員定数 14名
開 会 午後1時30分
閉 会 午後3時30分
出席者 ○分科会委員
岐阜経済大学経済学部教授 池 永 輝 之
公募市民 古 川 義 弘
公募市民 藤 田 繁 己
公募市民 本 多 高 洲
公募市民 柴 田 夕 子
公募市民 坂 本 由 貴
公募市民 伊 藤 祥 子
女性人材リスト登録者 石 川 晴 代
女性人材リスト登録者 安 部 晶 子

○事務局 企画政策課 係長 後 藤 政 樹
〃 主任 毛 利 卓 司

欠 席 者 公募市民 村 上 碩 也
公募市民 加 々 本 紘 一
公募市民 堀 田 義 郎
高須生活学校代表 加 藤 佳 余 子
海津市自治連合会代表 諏 訪 薫

会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 報告書素案について
 - ① 若年層の定住対策として有効なもの(個別発表)
 - ② グループワーク
①で発表されたものを絞り込み
 - ③ その他
4. その他
5. 閉会

会議録（要約）

事務局	<p>ただいまから海津市まちづくり委員会「ふるさと定住促進検討分科会」第15回目の会議を開催させていただきます。 はじめに会長よりあいさつをお願いします。</p>
会 長	(あいさつ)
事務局	<p>ありがとうございました。 それでは、今回は企画案の選定を行いたいと思います。はじめに、40項目ある企画案のうち、20～30代の若者にとって有効な対策と考えられるものを個別に発表していただきたいと思います。項目を挙げていただくだけでも結構ですが、特に理由があれば発表していただきますようお願いいたします。</p>
A委員	<p>人口流出を防ぐには、今やれることと長期にわたってやれることがあると思います。そこで3つ選びました。 「24. 三世帯同居家族には経済的支援を」 「26. 空き家紹介、新築助成」 「29. 養老鉄道の乗車券を市民に分配」 定住を促進するには、家族の絆・家族力の向上が大切で、多世帯同居率を上げることが必要と考えています。そして長期的な近居・同居を可能にできるような住宅の供給を進めて欲しいと思います。また、「29. 養老鉄道の乗車券を市民に分配」については、近居・同居に伴い、通勤や通学時に利用するであろうコミュニティバスと公共交通機関に対して、待ち時間の短縮とか連携を働きかけていく必要があるという意味で選びました。</p>
B委員	<p>基本的には、職の確保と住みやすさが必要かと考えます。 「1. 市民提案型・行政提案型協働事業の実施」 「3. 地域協議会の創設」 「4. 伝統行事の復活と活性化」 「5. 地元企業の情報発信と企業展の開催」 「6. 子育てしながら働きやすい環境づくり」 「9. 農業の企業化経営を促進」 「13. 新架橋に鉄道を」 「15. 小中高校生の土地への愛着を高める行事を実施」 「16. ボートなど、地域の特色を生かした活動を推進（学校）」 「19. 地域と学校の交流の機会を増やす」 「22. 人口流出の状況を市報等で継続的に訴えます」 「23. 市の委員会や審議会には若者を入れる」 「25. 海津市をベットタウン化する」地の利を生かした 「28. ベンチャー企業等への助成業を起こす」 「31. 定住自立圏構想により広域的な地域発展」 「40. PR術の向上を」</p>
C委員	<p>学生たちに地元の企業を知ってもらうことは良いということで「5. 地元企業の情報発信と企業展の開催」</p>

市内には子育てサポーターが大勢みえますので積極的に活用していくということで「6. 子育てしながら働きやすい環境づくり」
 自分の居場所、地域の人に見守ってもらえる、いつでも帰ってこられる場所など、小さい頃の印象や思い出を残せるようなまちづくりが必要であると思いますので「15. 小中高校生の土地への愛着を高める行事を実施」
 マイカーがなければ生活しづらい海津市にとって必要な対策として「30. マイカー通勤の人に補助」

D委員

子育て支援、住む環境、地域社会が定住対策の主な要素かと思います。
 「1. 市民提案型・行政提案型協働事業の実施」
 「5. 地元企業の情報発信と企業展の開催」
 「6. 子育てしながら働きやすい環境づくり」
 「8. 放課後子ども教室の実施」
 「9. 農業の企業化経営を促進」
 「13. 新架橋に鉄道を」
 「21. 単身赴任者への支援」
 「23. 市の委員会や審議会には若者を入れる」
 「28. ベンチャー起業等への助成」
 「30. マイカー通勤の人に補助」
 「32. 子宮頸がんワクチンの公費助成」
 「35. シルバー世代を中心にした地域共同作業やボランティア活動」
 「37. 農業を軸とした地域活性化対策を！」

E委員

子育てする30代の1人として選びました。
 「1. 市民提案型・行政提案型協働事業の実施」
 「2. 活動を支える中間支援組織の設立」
 「5. 地元企業の情報発信と企業展の開催」
 「6. 子育てしながら働きやすい環境づくり」
 「8. 放課後子ども教室の実施」
 「9. 農業の企業化経営を促進」
 「10. 奨学金制度の創設」夢を与える
 「14. 歴女に注目し、海津市の歴史文化をPRして女性を引き込む」
 「15. 小中高校生の土地への愛着を高める行事を実施」
 「16. ボートなど、地域の特色を生かした活動を推進（学校）」
 「21. 単身赴任者への支援」
 「22. 人口流出の状況を市報等で継続的に訴えます」
 「23. 市の委員会や審議会には若者を入れる」
 「24. 三世帯同居家族には経済的支援を」
 「25. 海津市をベットタウン化する」
 「26. 空き家紹介、新築助成」
 「27. 家賃補助の実施」家賃を下げる努力
 「30. マイカー通勤の人に補助」
 「32. 子宮頸がんワクチンの公費助成」
 「35. シルバー世代を中心にした地域共同作業やボランティア活動」
 「40. PR術の向上を！」

F委員	<p>住みよいまちづくり、誇れるまちづくりが一番ではないかと考えます。</p> <p>「1. 市民提案型・行政提案型協働事業の実施」 「3. 地域協議会の創設」 「4. 伝統行事の復活と活性化」 「5. 地元企業の情報発信と企業展の開催」 「6. 子育てしながら働きやすい環境づくり」 「10. 奨学金制度の創設」 「12. 大学の設立」 「13. 新架橋に鉄道を」 「14. 歴女に注目し、海津市の歴史文化をPRして女性を引き込む」 「15. 小中高校生の土地への愛着を高める行事を実施」 「20. 10年20年を見据えた教育基本目標を検討」 「24. 三世帯同居家族には経済的支援を」 「26. 空き家紹介、新築助成」 「35. シルバー世代を中心にした地域共同作業やボランティア活動」 「39. 観光政策による交流人口の拡大を！」</p>
G委員	<p>要因を挙げた時、それを分野に分けて整理しました。その個々の要因に対して解決方法を考えてきたわけですから、どれも必要ですので、整理して吟味してすべて提案にされてはどうかと思います。分野毎に必要な対策を挙げる、例えば子育て環境であれば「1. ○○」「2. ○○」という具合にまとめてはどうでしょうか。</p>
H委員	<p>まず対策を整理して、重点的に進めるのはこの分野、と言ったような提案をしてはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>今のご意見を受けまして、分かりやすく整理していただけるようホワイトボードに分野毎でまとめました。(別紙)</p> <p>ここで少し休憩を取らせていただいてから後半の協議を行いたいと思います。</p> <p>(休憩)</p> <p>それでは再開させていただきます。</p> <p>先ほどの皆さんの発表で、40項目から30項目になりましたが、これから皆さんでディスカッションをして、対策案を吟味していただき、もう少し絞っていきたくと思います。絞り込みについては、第14回の分科会時に第1次素案を出させていただけましたが、提案のスタイルとして重要課題「地域コミュニティを元気にする仕掛けづくり」と「若者に的を絞った戦略的な定住対策」を挙げ、その中に対策を付けていく案を提示させていただきましたが、そのスタイルに合わせてお願いしたいと思います。</p>
池永先生	<p>重要課題の「地域コミュニティを元気にする仕掛けづくり」としてこの対策はどうか、「若者に的を絞った戦略的な定住対策」としてこの対策はどうか、そういった整理、議論をしていきなさいと言うことだと思います。そうすると20～30歳代の若者にとって何が必要なのかと言うことを抜き出す必要が</p>

	<p>あると思いますが、（個人発表の対策の中に）出産・子育ての対策が挙がっていない事はどうなのか、住宅環境はどうなのか、そういうことを議論していく必要もあると思います。</p>
D委員	<p>住宅環境、出産・子育ては、行政としてどこまで支援できるのかが問題なんだろうと思います。住宅資金の援助とか医療費の援助とか、支援のポイントをどこに置くのが最善なのか考えないといけないのではないですか。</p>
池永先生	<p>例えば「海津市をベッドタウン化する」という案は、市外から人を呼び込もうという事ですので、人口流出抑止策としては外れるのではないのでしょうか。色々対策案が出ておりますので、思い切って削除していったらどうですか。</p>
C委員	<p>海津市の弱点を補ってくれるという意味で、公共交通と住宅の面で、市が支援するというアピールが必要ではないのでしょうか。</p>
E委員	<p>20～30歳代の目で見ると、まず住むところがないと困るので、空き家対策や家賃補助があった方がよいし、経済的な支援があった方が良いでしょう。出産・子育ては、自分では何ともならない病院のこととか、子どもの預ける環境も整備してほしいです。職場は、父母一緒に子育てをするのが理想ですので、職場と自宅は近い方がいいし、子宮けいがんのワクチンや各種予防接種も助成してほしいと思います。長い目で見れば、高齢になったら公共交通も重要です。色々ありますがまずは「住宅」、「子育て、職場」、その他に公共交通とか地域コミュニティも必要かと思います。</p>
D委員	<p>女性から見たら一番は出産・子育てですか。</p>
E委員	<p>結婚してここに来るなら家がないといけないし、家があって出産するのであれば、出産・子育てが重要になります。優先順序的な事は入り方によると思います。</p>
G委員	<p>地元企業の企業展とか言葉にとらわれず、要はどういった企業が近くにあるのか、海津市から通勤できるのか、そういったことが知りたいところですので、そういった文面が必要かと思います。その次に就職をしたと、じゃあその人が離れたところに行った場合に、住所を変えずに行く人もいるでしょうから、そういうことを支援するシステムがあるかということ。その次にベンチャー企業、起業を起こす時に助成金を出すと、そこら辺を分類して、だからこのような対策を考えましたと言うように全部を考え直したらどうでしょうか。</p> <p>例えば教育環境で言うと、海津市はレベルの低い教育しか受けられないのではないかという不満を持っています。それを払拭するために、どういった教育レベルを保とうと、その提案はこうですよ、そういったまとめ方で文章を考えてはどうかと思います。</p>
事務局	<p>E委員さんのご意見を聞いておりましたら、例えば1人の人間の人生をイメージして考えると分かりやすいのかなと思いました。就職があって結婚があ</p>

	<p>って子育てがあって、そういうイメージをもって提案するのも一つなのかと思いました。</p>
G委員	<p>地域コミュニティなんかも伝統行事の復活とかありますが、地域によってはかなりやってみえます。また、若者にとっては負担となっています。時代に調和した形での復活というか、復活はないと思いますが、どちらかというところと活性化という表現でやって欲しいと思います。また、地域協議会の創設なんかは、これ以上また組織を作るのかということにもなりますので、今ある組織をどのように運用、連携させていくのかといった表現にしたほうが良いと思います。</p>
事務局	<p>地域協議会についてですが、社会福祉協議会が「地区社協」ということで実施されております。既に積極的に取り組んでおられるところや、難航している地区もあると聞いております。そうした状況の中で、今、海津市が地域協議会を作りましょうということは、賛否両論あるかと思いますが、これ以上組織づくりは・・・といったご意見がありましたので参考までに申しますが、提案型の協働事業補助金があれば、地域協議会を組織化しなくても、それに近い事が出来るのではないかと思います。例えば、地区社協では吉里地区が積極的にやってみえますが、その地区の中で福祉分野以外のまちづくり活動をやりたいという事になれば、それを地域で企画して、協働事業としてふさわしい案件であるということになれば補助金も得られる訳ですので、地域協議会の創設とまでは行かなくても近い活動は可能なかと思えます。そして将来的に小学校区での地域活動が活発になって、市民の気運が高まってこれば地域協議会を市として取り入れていくという事にもつながっていくかも知れませんが、この件については、あくまで提案型協働事業の補助制度があって、かつ制度上もそうした単位区や事業内容が合致している場合の仮定の話です。</p>
B委員	<p>提案内容をざっと見ると、即効薬もあればビタミン剤もあり、ぼんやりとした環境的なこともあります。</p> <p>補助金の話ですが、費用対効果を考えた場合、どのくらい利用者が出て、特定の人に利益を与えて、どれだけ定住に寄与できるのか見た時、シンボルとしてやるのであれば良いのですが、そうではなくて実効あるものとしてやるのには奨学金だとか色々出ていますがほとんどお金（助成金等）ですよ。私は年金世代になりましたが、現役の時と比べて税の負担が大きくなっているんですよ。そういう中で補助を突っ込んでいったときに、いずれ税の跳ね返りがあるわけです。そういうことを考えると補助ばかりというのはどうかと思いますが、我々がそこまで考える必要ないのであれば良いのですが。</p>
D委員	<p>税金の使い方の問題ですよ。この分野・施策にお金をかける、あの分野は削るなど、行政の考え方や予算配分のバランスの問題だと思います。必要な事に税金を使って、無駄なものは省くということだと思います。</p>
B委員	<p>税金の使い道だと言ったならば、できるだけ利用者が多い、公平に誰でも使えるところに使ってほしいわけです。例えばインフラの整備。名古屋に行きやすい、岐阜に行きやすいとか、道路はみんな使うわけですが、あまり個別</p>

的なところは勘弁してほしいのですが、予算配分の話については先ほどのD委員の話で、行政の考えと言うか、どこに重点を置くかということなんだろうが、我々としては対策が有効かどうかということを検討して提案すれば良いということであれば、お金（税金）の話はしなくても良いのでしょうか、それにしても（補助金を）出しすぎだなと思いました。

事務局

さて、本日の会議時間も残りわずかとなってきました。このペースでは12月の報告書完成は厳しい状況です。残る分科会の時間を1時間延長して3時間行うとか、月に2回開催することもお願いさせていただくかもしれません。そこで事務局から提案ですが、今日のご意見を参考に、提案内容を事務局でまとめてみたいと思います。ほぼ完成体の報告書を次回分科会で、お示ししますので、提案内容や文章表記を添削していただくということでどうでしょうか。

（異議なし）

それでは、以上をもちまして海津市まちづくり委員会「第15回ふるさと定住促進検討分科会」を終了いたします。